

# 本はともだち 2

— 図書館がすすめる6～7歳の本 —



	<p><b>アンディとらいおん</b></p> <p>ジェームズ・ドーハーティ/文・絵 村岡花子/訳 福音館書店 E903.6ド</p> <p>アンディは、図書館でライオンの本を借りました。本を読んだり、おじいさんからライオン狩りの話を聞いたりして、頭の中はライオンでいっぱいです。次の日、アンディが学校へ行く途中、岩かげに変なかつこうのものが見えました。近づいてみると、それはライオンだったので。</p>
	<p><b>いちねんせい</b></p> <p>谷川俊太郎/詩 和田誠/絵 小学館 911.5</p> <p>先生が黒板に書いた「あ」の文字。ノートの後ろに自分で書いた自分の名前。友だちとの出会いやけんか。初めての学校生活を送る子どもたちのドキドキする気持ちや成長を描いた詩集です。</p>
	<p><b>おおきくなりすぎたくま</b></p> <p>リンド・ワード/作 渡辺茂男/訳 ほるぷ出版 E903.6ワ</p> <p>ジョニーくんは、森で出会ったこぐまを家に連れて帰りました。こぐまはなんでも食べてどんどん大きくなり、しまいには村のやっかいものになりました。ジョニーくんは仕方なく森へ返そうとしますが、どんなに遠くの森で放しても、くまはジョニーくんのところへ戻ってきてしまうのです。</p>
	<p><b>おおきなおおきなおいも</b></p> <p>赤羽末吉/作・絵 市村久子/原案 福音館書店 D913.6ア</p> <p>明日はあおぞらようちえんのいもほり遠足です。ところが朝になると雨が降っていたので、いもほり遠足は一週間延期されることになりました。「一週間経つと、いもほりはいっぱい大きくなる」と先生から聞いた子どもたちは、どれだけ大きくなるか、いもの絵を描きはじめました。</p>



**おさとぼうしうり** エズフィール・スロボドキーナ/作  
 松岡享子/訳 福音館書店 **E903.6 ス**  
 頭の上にぼうしをたくさん乗せて売り歩くぼうし売りがいました。ある日、ぼうし売りは木に寄りかかって眠ってしまいました。目が覚めてみると、頭の上にあるはずのぼうしは一つ残らずなくなっていました。見上げてみると木の枝にはたくさんのさるがいて、みんなぼうしをかぶっていたのです。



**おそうじをおぼえたがらないリスのゲルラング**  
 ジャンヌ・ロッシュ=マゾン/作 堀内誠一/絵 山口智子/訳  
 福音館書店 **D953.7 口**  
 11匹の子リスのきょうだいは、毎晩ご飯の後におそうじをします。ところが、一番小さなゲルラングはおそうじが嫌いでちっともしません。ゲルラングは、とうとうおばあさんにも怒られてしまい、家出をすることにしました。



**おそばのくきはなぜあかい**  
 石井桃子/文 初山滋/絵 岩波書店 **D913.6 イ**  
 昔々、冬の寒い日のこと、おそばと麦が川のそばで話をしていました。そこへ白いひげをはやしたおじいさんがやって来て、おぶって川の向こう岸まで渡してほしいと言いました。表題の「おそばのくきはなぜあかい」の他、「おししのくびはなぜあかい」「うみのみずはなぜからい」日本の昔話が三話。



**かもさんおとおり** ロバート・マックロスキー/文・絵  
 渡辺茂男/訳 福音館書店 **E903.6 マ**  
 かものマラードさん夫妻は、巣を作るのにいい場所を探していました。やっと気に入った川の中州に巣を作り、やがてひなが生まれました。泳げるようになった子がもを連れて、今度は公園の池にお引越しです。



**くいしんぼうのはなこさん**  
 石井桃子/文 中谷千代子/絵 福音館書店 **E903.6 ナ**  
 子うしのはなこさんは、春になったので他の子うしと一緒に山の牧場へ行きました。子うしたちは、ちゃんばらごっこをして、一番強いはなこさんを女王にしました。わがままなはなこさんはいつもいばって、水を飲むのも木陰で休むのも一番です。



## 子どもに語る グリムの昔話 1～6

佐々梨代子・野村滋/訳 ドーラ・ポルスター/扉絵  
こぐま社 388

グリム童話を読み聞かせるなら、元のおはなしに忠実で読みやすいこのシリーズがおすすです。大きい子向けのおはなしも多く、長い期間楽しめます。「おかあさんやぎと七ひきのこやぎ」や「しらゆきひめ」など、誰でも知っているグリム童話を身近な大人の方が読んであげてください。



## こねこのぴっち

ハンス・フィッシャー/文・絵

石井桃子/訳 岩波書店 E903.6 フ

ぴっちは、小さくておとなしい子ねこです。きょうだいの子ねこがすることとは全然違うことがしたかったぴっちは、一人で家を出ていきました。おんどりやヤギやアヒルの真似をして、夜になるとうさぎと一緒にうさぎ小屋で寝ようとするのですが…。



## たんたのたんけん

中川李枝子/作 山脇百合子/絵 学研教育出版 D913.6 ナ

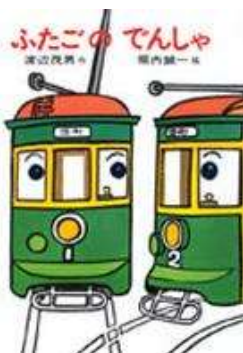
たんたの誕生日に謎の地図が届きました。三角や矢印が書いてあって、どうやら探検の地図のようです。たんたは探検の用意をしようと、さっそく買い物に出かけました。すると、ひょうの子がやってきて、たんたと同じものを買うのです。



## どろんここぶた

アーノルド・ローベル/作 岸田衞子/訳  
文化出版局 D933.7 □

おひやくしょうさんの家のこぶたは、どろんこが大好きでした。ところが、ある日おかみさんが家じゅうの大掃除を始めて、豚小屋もきれいにしてしまいました。どろんこがなくなって怒ったこぶたは、家出をすることにしました。



## ふたごの でんしゃ

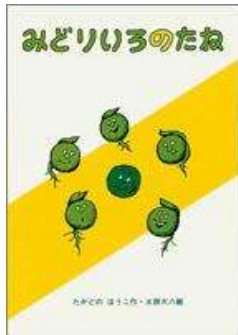
渡辺茂男/作 堀内誠一/絵 あかね書房 D913.6 フ

ある町に、「べんけい」と「うしわか」というふたごの電車が走っていました。町の人たちは、どこへ行くにもふたごの電車に乗って行きました。ところがいつのころからか、町の電車通りに自動車が行くようになり、とうとう、「べんけい」と「うしわか」は廃止されることになってしまいました。



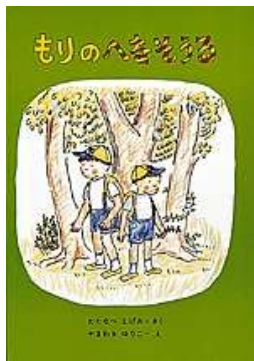
## ふらいぱんじいさん

神沢利子/作 堀内誠一/絵 あかね書房 D913.6カ  
ふらいぱんじいさんは、金色のお日さんみたいな卵を焼くのが大好きなのに、もう卵を焼かせてもらえなくなりました。そこで、ふらいぱんじいさんは旅に出ることにしました。ひょうに鏡と間違われたり、だちょうに蹴飛ばされたり…ふらいぱんじいさんの旅は続きます。



## みどりいろのたね

たかどのほうこ/作 太田大八/絵 福音館書店 D913.6タ  
たかどのほうこのクラスでは、畑に種をまくことになりました。先生はひとりひとりに緑色の種を5個ずつ配りましたが、まあちゃんだけは、種と一緒に緑色のメロンあめまで埋めてしまったのです。



## もりのへなそうる

渡辺茂男/作 山脇百合子/絵 福音館書店 D913.6ワ  
てつたくんとみつやくんの兄弟は、森へ探検に行きました。宝物を探していると、太くて背の高い木の下に大きな大きな卵が転がっていました。てつたくんの背の高さくらいもあって、赤と黄色のきれいな縞模様です。次の日、二人が森へ行くと、今度は「へなそうる」というへんな動物に会いました。

## おうちの方へ

小学校に入学して世界がぐんと広がってきた子どもたちへ、図書館からおすすめしたい本をご紹介します。この年齢の子どもたちは、自分で読むことも、おうちの人に読んでもらうことも大好きな年頃です。お気に入りの本が見つかりましたら、どうぞおうちの人の声で読んであげてください。同じ物語を一緒に楽しんだ幸福な時間は、子どもたちが本を好きになるきっかけになると思います。

このリストで紹介した本は、世代を超えて読み継がれている名作で、内容も冒険もの、ファンタジー、楽しい日常を描いたもの、昔話など、子どもの幅広い興味に答えられるように心を込めて選びました。市立図書館でも所蔵していますので、ぜひ手にとってご覧ください。本選びに迷ったときには、お近くの図書館にお尋ねください。

\*「本はともだち 1」でも、いろいろな本を紹介しています。